

くらみかわのぼりいせき

## 倉見川登遺跡

(寒川町 No.70 遺跡)

調査期間 20090116～20090315

所在地 高座郡寒川町倉見  
3831-2 他

時代 弥生、古墳、奈良・平  
安  
近世



作成日:20090619

### 概要

倉見川登遺跡の発掘調査は、さがみ縦貫道路建設事業に先立つ調査として宮山中里遺跡および倉見川端遺跡の調査と共に進めています。

この遺跡は相模川左岸の微高地(自然堤防)に立地していて、JR相模線倉見駅の西側に広がっています。東海道新幹線の高架橋をはさんで南側には、倉見川端遺跡があります。

2008年度は倉見川登遺跡1区の発掘調査を行いました。

この調査では、弥生時代後期から古墳時代前期頃(約1,750年前頃)の集落跡、古墳時代後期(約1,400年前頃)の古墳の周溝跡、近世(江戸時代)の溝状遺構などが見つかっています。また、江戸時代以降の地震によると思われる地割れ・地滑りの痕跡が発見されました。この中で弥生時代後期から古墳時代前期の遺構は、竪穴住居跡が9棟、炉跡2基、土坑1基が発見されました。これらの遺構から出土した土器には、煮炊きをするための鍋に台を付けた「台付甕(だいつきがめ)」と呼ばれる土器や、貯蔵用に使われたと考えられる「壺(つぼ)」などがあります。出土した台付甕の中には「S字状口縁(えすじじょうこうえん)台付甕」と呼ばれる外来系の要素をもつ土器もあります。

この地区の出土品整理は2009年度に実施する予定です。



▲竪穴住居跡土器出土状況(古墳前期)



▲古墳の周溝跡(古墳)



▲溝状遺構(近世)